

本部会には各中学校から1名ずつの部員が所属しており、ほとんどの部員が毎年入れ替わっている。今年度は小学校からの所属部員も増え研究に広がりが見られている。

特活、道徳、総合的な学習の時間、また教科の学習においてもキャリア教育の視点を取り入れた授業について研究を行ってきた。各教科や総合的な学習の時間等において、他者と協働して問題解決に向けて努力したり、互いの意見を交換して新たな価値観を見いだしたりすることは、自立に向かう子どもの育成に不可欠である。また、学習意欲の向上や学習習慣の確立、自己有用感にも大きな影響を与えるものと考えられる。

近年、若い世代が将来の目標や勤労意欲がもてないこと、就職後の離職率が高いことが課題となっている。キャリア教育におけるスキルの育成や人間関係形成能力、社会形成能力の育成の点から、中高の連携も重要なものとなってくる。近隣の高等学校教諭を招聘し、情報交換する機会を年間計画の中に設定し、研究をすすめている。

## 1. 部会テーマ

一人ひとりにあった、生きる力をつけるためのキャリア教育はどうあるべきか

～小・中における授業実践を通して～

- ・各教科の授業をキャリア教育の視点で実践し、資料を持ち寄り情報交換をし、相互に学習を深める。
- ・地域との連携、また職場体験について各校の実践を報告し、学び合う。
- ・近隣の高等学校教諭を招聘し、高校入試や高校生活、また、その後の進路指導などについての学習会を行う。

## 2. 研究経過

- 5月 8日 組織づくり
- 5月22日 研究テーマについて、研究内容、年間活動計画 県教研報告
- 6月12日 各校実践発表 山梨北中 松里中 松里小
- 8月 9日 夏季学習会  
高校との情報交換会 「笛吹高校の先生をお招きして」  
統一授業研究指導案検討
- 8月28日 統一授業研究（塩山南小・雨宮 正教諭）  
研究授業「みんなの心に残る運動会をつくろう」
- 9月18日 秋季教育研究  
各校実践発表 勝沼中 山梨南中 塩山北中
- 11月27日 各校実践発表 山梨小 塩山中 大和中
- 1月15日 統一授業研究授業案検討

2月 5日 統一授業研究

研究授業「ACHIEVUS communication」（笛川中・田草川富夫教諭）

2月12日 研究の総括

### 3. 成果と課題

今年度は小学校の部員が入ったことで多くの成果があった。小中の発達段階に沿った実践を持ち寄り、それぞれの取り組みを理解し合うことができるとともに、キャリア教育の可能性を共有することができた。さらに、小学校、中学校での授業実践を通して、それぞれの発達段階でつけたいキャリア発達を確認することができた。

前年度から引き続きの取り組みとして高校の先生から進路・進学について話を聞け、意見交換できたことで中学卒業以降の具体的なイメージも共有でき、貴重な経験となった。

今後の研究として将来、自らの力で進路を選択し、強くたくましく生きていける子どもたちを育成するために、小・中でどのような力をつけていけばよいか、東山地区の子どもたちの実態に合わせ、本部会なりの意見・提言をまとめていきたい。また、小中連携したキャリア教育を行うカリキュラムマネジメントについても考えていければと思う。

小学校、中学校で授業実践が行われたが、小中二つの授業とも、学校における進路教育の幅を広げる内容であった。個の能力を引き出すための手立て、まわりの人との関わりの中で得られるものなど進路実現のために重要な要素についての取り組みで、新たな視点につながった。それぞれ子どもたちに、その段階でつけさせたい力、また、集団としてつけさせたい力を見据えたものであった。中学校の実践「ACHIEVUS」については初めて知る部員が多く、大変参考になった。カードゲーム形式で行われる授業の中で、人を否定せず、前向きな言葉が多く聞かれた。構成的エンカウンター等も通じる部分があるが、子どもたちが人や社会と関わる自分に気づくきっかけを与えることが大切であると改めて感じた。

進路教育はキャリア教育に特化したものではない。すべての学習活動において、私たち教師がキャリア発達を促す機会を作っていくことが大切である。将来の可能性を広げ、自己実現を図るために、スパイラルにキャリアを積み重ねていく大切さを改めて確認する研究となった。

### 4. 研究部会員

指導助言者 青柳 俊雄（松里小校長）

部長 佐久間 潤（松里中） 副部長 若月敬二郎（山梨小）

古屋 浩紀（山梨南中） 筒井 修子（山梨北中） 田草川富夫（笛川中）

小林 誠治（塩山中） 瀧本美由紀（勝沼中） 駒井 隆浩（大和中）

広瀬 奈見（塩山北中） 岡村 澄人（松里小） 雨宮 正（塩山南小）